

## リスク (標準偏差) の正体 前編 (資産形成コラム)

リスクと聞くと、マイナスだったり損失だったり、どちらかと言うとネガティブなもので、出来る限り避けたいと思うのが一般的な感覚だと思います。しかし、何度も私の資産形成コラムではリスクとは期待リターンから上振れすることもリスク（要するにプラス）、下振れすることもリスク（要するにマイナス）とお伝えしています。そうは言っても、リスクと言う言葉を聞くとやっぱりマイナスであり避けたいと思ってしまうのが、人情だと私自身も理解しています。とすることで、ここでは資産形成・資産運用におけるリスクを小難しい表現になってしまいましたが、金融経済学的な表現で『標準偏差 (ひょうじゅんへんさ)』という言葉で置き換えて解説していきたいと思います。リスク=標準偏差と認識していただくことで、マイナスだけのイメージになりにくいと思いますし、標準偏差という言葉聞いた瞬間、何か避けたい恐ろしいものだと一般的には感じなくなると思いますので、資産形成・資産運用における『リスク』を正しく理解するために、新鮮な気持ち且つ中立的な感覚で標準偏差について出来るだけ分かりやすく解説していきます。(※ちなみに、標準偏差は横文字・カタカナでは『ボラティリティ』と表現されることもあるので、同じことだと思ってください。)

と、その前にいつもの余談と言うか雑談を少々、2026年2月現在突然の衆議院議員選挙が行われ、自民党が単独で3分の2以上の議席を獲得した歴史的な総選挙の結果となりました。選挙戦や選挙後に高市総理が繰り返し発言していたことの一つに「挑戦しない国に未来はありません。」と言った、私個人的には頼もしいなあ〜と思える考えを発信しています。個人的な政治的・イデオロギー的なことをお伝えしたい訳ではなく、ただ単に“挑戦”という言葉に力強さを感じたというだけのことで、1つの例え話だと思ってください。ここでお伝えしたいことは、挑戦には必ずリスクが伴うということです。このリスクは単なる失敗ではなく、これからお伝えする標準偏差的な意味合いが含まれていると感じてもらえると思います。つまり、挑戦すると失敗することもあるれば上手くいくこともあり、その失敗から成功までの幅をリスク＝標準偏差と捉えてください。挑戦した際に、自分が思っていた成果が出ず損失を被ることはあります。それとは逆に自分が思っていたよりも成果が上がることもあります。普通の成功＝当初思っていた成果を100だとすると、失敗して損失を被った場合を80、当初期待していた以上の成果が出せた場合を120。つまり、この挑戦には80になる場合もあれば120になる場合もあり、このブレ幅こそが『リスク＝標準偏差』だと認識してください。リスクを取るつまり挑戦すると何

故、将来成功する可能性が上がるのかを理解することが出来ると思いますし、そもそも挑戦しないと成功するしないの前に何も起こらないということも改めて認識できると思います。そういう意味で、今の日本は女性初の総理大臣というリスク、その首相が挑戦をするというリスク、どれ程のリスク=標準偏差があるかは私には計算出来ませんが、上振れする可能性も同じだけある、とても面白いというか興味深い状態だと個人的には認識しています。そして、リスク=標準偏差の下振れに対してはどのような対応が必要かもリスクの正体と合わせてお伝えしていきます。

**や**っと本題に入ります。標準偏差を理解してもらうために簡単な例として、身長 175 cmの人が 2 人、170 cmの人が 2 人、165 cmの人が 2 人の合計 6 人のグループがあるとします。ここから①~④の手順でリスク=標準偏差を出していきますが、理由や言葉の定義等を詳しく説明していくと京都銀行並みになが~~~~~くなりそうなので（関西人にしか伝わらない表現ですが悪しからず）、割愛して出来る限り簡潔に解説していきます。

①平均をだす。このグループの平均身長は 170 cm (( $175 \times 2 + 170 \times 2 + 165 \times 2$ )  $\div 6 = 170$ )、②それぞれの偏差（平均身長からの差）を出します。175 cmの 2 人はプラス 5、170 cmの 2 人は 0、165 cmの 2 人は-5 に

なります。③分散（それぞれの偏差を 2 乗した数字の平均）を出します。  
+ 5 の 2 乗は 25、0 の 2 乗は 0、- 5 の 2 乗は 25、2 乗したら 25 になる人が 4 人で 0 が 2 人。合計 100 を 6（人）で割って平均は 16.666666・・・（ $(25 \times 4 + 0 \times 2) \div 6$ ）。④分散の平方根をとります。 $\sqrt{16.666666 \dots}$ 、これが標準偏差であり金融経済学でいう、リスクです。つまり、このグループのリスク=標準偏差は約 4（ $\sqrt{16}$  は  $\sqrt{4 \times 4}$  で 4 なので、 $\sqrt{16.6666 \dots}$  はだいたい 4）になります。

2 乗したり平方根にしたり、意味があるようなないような行ったり来たりするような計算をひとまず終えました。ややこしいと感じた方もおられるかもしれませんが、実はこれ小学校 5 年生くらいの算数の授業でやる平均点とか中央値とか最頻値なんかの知識でもあり、以前は高校 2 年生の数Ⅱで習っていた分散とか標準偏差については、今は数Ⅰなので高校 1 年生で習います。小学生以上のお子さんをご家族におられたら、一度お話されてみても面白いと思います。

**と**言うことで、リスクの正体・標準偏差についてご理解いただき、リスク=マイナスのイメージを払拭していただけたところで、前編を終了して、次回後編では、じゃあリスクの正体を理解して今後の資産形成・資産運用

にどのように役立てていくかを解説していければと思いますので、楽しみにしててください。ポイントは、将来予測とリスクとリターンにおける長期運用の効用、そして世にも恐ろしいリーマンショックのような大暴落の際の正しい対処法についてとなります。

日々さまざまなことで感情を揺さぶられますが、フラットかつニュートラルな状態で世の中を見られるようになり、安定した資産形成のお役にたてるよう勉強し経験し、今後も情報提供していきますので、よろしくお願いいたします。

S L 2 9 0 3 - 3 2 2 0 - 4 6 9 2

ソニー生命保険(株) 大分支社

〒 870-0029 大分市高砂町 2-50

オアシスひろば 21 9 階

TEL 097-532-9200

ライフプランナー 山田新悟